菊名記念AAクリニック

菊名記念AAクリニック.....P188

［ 菊名記念AAクリニック ］

菊名記念AAクリニック

院長　山本　芳子

1 人員構成（2025年４月１日～2026年３月31日）

●常勤医

・院　長　山本　芳子
人間ドック認定指定医専門医
日本医師会認定産業医
日本レーザー学会評議員
日本抗加齢学会会員
日本胎盤臨床研究会会員
点滴療法研究会会員
バイオタッチジャパン認定　医療アートメイク取得
医療法人五星会理事　　医療法人三星会理事
医療法人つばさ会理事長
株式会社 Isis 代表取締役

・医　員　波多野　美優
日本形成外科学会
日本美容皮膚科学会
一般社団法人aesthetic medical academy
(エステティックメディカルアカデミー)

●非常勤医

市川　聡子
医学博士

辻阪　安声
日本専門医機構認定形成外科専門医
日本医師会認定産業医
日本形成外科学会
日本美容皮膚科学会
日本美容外科学会（JSAPS）
日本化粧品検定１級

医　師	看護師	助　手	事　務
４名	２名	１名	１名

2 診療体制（2026年３月31日現在）

月	火	水	木	金	土
山本／波多野	波多野	市川	山本／辻阪／波多野	波多野	波多野（第４週）

●診療内容

1. 美容皮膚科
2. 眼瞼下垂、下眼瞼脱脂、二重瞼　等の目周りの美容外科手術
3. 高濃度ビタミンＣ点滴療法（がんの代替医療）
4. プラセンタ療法
5. アンチエイジングドックと健康管理
6. 栄養解析とサプリメント外来
7. 男性型脱毛
8. 遺伝子検査、他
9. 医療アートメイク、パラメディカル・アートメイク
10. PRP療法
11. 帯状疱疹ワクチン、RSワクチン

3 診療状況

菊名記念AAクリニックは、完全な自費診療を行っている。

【対象となる患者さま】

①がん・疾病予防などさまざまな理由で保険診療外の診療を求める方

②標準的な診療で病気とまでは言えず、治療の対象外になるも、患者さま自身が慢性的な体調不良や不安定な状態で苦しんでいる方

③美容的に改善したい方であり、インフォームドコンセントがたいへん重要になる。

【治療目的・状況】

１．①の高濃度ビタミンC点滴療法は、副作用が殆どないがんの補完療法として注目も成果もあげている治療法である。当クリニックでは始めて15年が経過した。
目的はがんの治療とQOLの改善で、標準治療と並行して行える治療である。
補完療法を受ける患者さまは、標準療法で
・もう治療法がない。
・過去に医療機関で納得がいかなかった。
・標準療法の副作用で大変つらい思いをした。
・１次、２次予防で受けたい。
という方々であり、進行がん・末期がんが多く、がんについてかなり学んでから来院される。結果は、早い方は１ヵ月もしないうちに、QOLがあがる。見違えるほどお元気になり、活力が出て、体調が良くなり、病気と闘う気力・体力が戻ってくる。マーカーが下がった、陰影が薄くなったなどの報告を受けているが、元気になられたところで、標準治療も受けることをお勧めしている。問題は高額なため、長期にわたって継続できる方が限られることであり、もっと早い段階で介入できたら、保険診療との併用でさらに高い効果を生めるのではないかと思われ、本治療の認知度を上げていくことが課題である。

２．美容皮膚科については、到達点は患者さまの満足度となる。満足度は個々に違う点と患者さまのイメージと現実との乖離を近づける点が難しく、初診時の説明が大変に重要となり、信頼関係が必要となる。
美容の三大主訴は「シミ・シワ・タルミ」であり、①「シミ」（老人性色素斑・脂漏性角化症）が最も多い。「シミ」には、IPL光線・Qスイッチルビーレーザーを主に使い、80代90代の患者さまにも安心して受けていただいている。

②「シワ」には機械類の他に、ヒアルロン酸・ボトックスの注射を行っており、満足度が高い。③「たるみ」には、HIFU(高密度焦点式超音波)、ヒアルロン酸注入で治療している。また、難治性ニキビについては、皮膚科的治療に加えて、ケミカルピーリング・YAGレーザー・イオン導入を用いて治療するが、大変に良い成績を上げている。

●他の美容クリニックとの違い

1．菊名記念病院との連携による安心感
2．地域密着型である
3．80歳代・90歳代、男性の患者さまの割合が高い
4．安全管理の徹底

4 特に力を入れたこと

1. 患者さまへの丁寧な応対、わかりやすい会計、心地よい空間
2. 初診時の時間をかけた診察
3. ＩＶＣの充実
4. 皮膚科との連携
5. ダーマペンによる治療
6. ＳＮＳによる宣伝
7. 帯状疱疹ワクチン接種

適切で安心な美容診療、より良い応対･環境を目指し、職員の教育やミーティングにも時間をかけている。

5 今後の課題

1. たるみ治療の強化
2. プラセンタ療法及び、IVC療法の充実
3. Nd：YAGレーザーの活用
4. ちりめんシワ・首のシワへのアプローチ
5. PRP療法(自己多血小板療法)など再生医療の症例数増加
6. 男女を問わず、脱毛・薄毛の対策

●展望

1. アートメイクの症例数増加。眉毛・アイライン・口唇だけでなく、乳輪・白斑・薄毛にも対応。
2. 当クリニックにおいては、プラセンタ療法をさらに充実させていきたい。
3. 点滴に通院してくるがん患者さまがくつろいで安心して受けられる空間を作っていきたい。
4. シワ、たるみに対しては、従来のヒアルロン酸注入やボトックス注射に加えて、自己血を遠心分離して注入するPRP療法の積極的な取り入れを継続したい。
5. 機械類はQスイッチルビーレーザーをはじめ、アグレッシブな機械であるので、なお一層の安全管理を徹底し、頻回な経過観察を行うことや色素沈着に対するケアなど、治療後も患者さまに安心していただけるよう努めていきたい。また、当クリニックの知名度を高めることにも力を入れていき､「美容には興味があるが、あと一歩の勇気が出せない｡」という潜在的な患者さまのニーズにお応えできるクリニックを目指していきたい。
6. 単にお顔の美容だけでなく、肥厚性瘢痕、黄色腫、白癬、重症ニキビ、内臓悪性腫瘍後のLaser-Trelatなどにも役立つレーザー治療法があるので、保険診療でできない部分を補っていきたい。
7. 副作用の少ない自己血を使ったPRP療法は再生医療の１つであり、アレルギーの心配がなく注目されている。当院の検査室で、採血後直ちにPRPを作るので、安心安全が確保されている。今年度はPRP療法の症例数をのばしていきたいと考えている。
8. 美容のみならず、自費診療の分野の情報量が増えてきた。研究会・講習会などに積極的に参加して、安全で確実性の高い治療を取り入れていきたい。

また、2022年１月17日より菊名記念病院内から独立し約４年が経過した。SNSを通じての認知・予約が増え始めてきて、宣伝の効果が実りつつある。それにより2024年４月からは、医師・看護師等のスタッフを増やし外来数増加を期している。

【今後の課題】

①認知度を上げ、集患につなげるため、看板・チラシに加えて、インスタグラム・ユーチューブ・ラインを開始した。一定の期間が経ち、ＳＮＳからの患者さまが訪れることが増え始め、いかに診療内容を目で見える形で知っていただくかの重要性を実感している。近年では60代以上の方もSNSを介してアクセスなさる事がわかった。現在は患者さまの手間を省く意味もあり、インターネットやラインを使った予約を運用し、良く機能している。

②新規の治療として

＃１　形成外科医が2名になり今後は目周り(眉下切開、二重手術、目の下のたるみ)に対して外科的治療を開始する予定である。

＃２　アートメイク(美容だけでなく乳がん患者さまへの乳輪への色付けや生え際の毛髪作りなど)を医師２人が学び、2人のアーティストを揃えた。若い方のみならず、高齢や男性の眉毛の少ない方に施術すると顔立ちがはっきりして若々しくなるので、美容治療の仕上げのように考えられる。

＃３　再生医療の１つであるＰＲＰの皮膚への治療を再開している。過去にＰＲＰ治療を行っていたが法律が変わり一時中断していたものの、厚労省の認可を得た。その際、菊名記念病院検体検査室の協力により、検査室も培養加工施設としての認可を得たので、今後は関節へのＰＲＰ治療の道も開けている。

＃４　ヒアルロン酸注入の新しい方法として、骨膜上にヒアルロン酸を注入するＴＦＴ療法を開始した。よく聞くほうれい線の悩みはシワではなくタルミである。ＴＦＴ治療とは、これら顔を支える部分にヒアルロン酸を注入し、タルミの改善をはかるものである。骨膜上に打つため、アラガン社からハンズオンで指導を受け、十分に準備を行った。

【まとめ】

当クリニックは全て自費診療である。保険診療では聞いたことのない新しい診療方法も多くあるため、正しく研究している機関との事前の学習やトレーニングを欠かさずに、取り組んでいく所存である。

また、形成外科医による二重まぶたの治療と眼瞼下垂の治療を外来手術にて行う予定である。

●月別患者数

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
初診	6	11	9	11	6	5	10	7	13	12	10	14	114	131
再診	54	48	48	52	51	56	55	59	68	46	50	67	654	689
合計	60	59	57	63	57	61	65	66	81	58	60	81	768	820

●施術別件数

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
光	29	11	14	20	12	14	19	21	27	17	21	22	227	269
Ｑ ル ビ ー	3	1	2	0	1	2	3	5	11	10	8	7	53	63
アキュチップ	0	1	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	4	13
CO_2	1	5	2	4	1	2	5	5	9	6	9	7	56	60
ピ ー リ ン グ	34	29	31	33	30	36	36	38	38	28	35	42	410	397
イ オ ン	39	33	37	41	33	36	40	38	39	35	41	44	456	411
メソアクティス	5	4	3	6	4	2	3	8	3	4	3	6	51	93
ダ ー マ ペ ン	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
シ ワ 注 射	6	5	6	10	15	14	15	12	18	8	5	10	124	109
プ ラ セ ン タ	2	3	4	3	3	5	5	4	5	2	4	3	43	54
高濃度ビタミン	3	1	2	1	1	0	2	0	7	1	2	3	23	22
そ の 他 注 射	3	1	1	2	1	2	2	1	6	4	5	1	29	46
脱 毛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ピ ア ス	1	1	2	0	1	0	4	2	2	0	0	6	19	9
ド ッ ク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウ ル セ ラ	3	3	7	2	2	0	3	2	0	2	0	0	24	22
アートメイク	1	2	1	1	2	1	0	2	3	1	0	1	15	9
Ｐ Ｒ Ｐ	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	3
脂肪溶解注射	0	0	1	3	1	1	1	2	3	2	2	5	21	3
帯状疱疹ワクチン	1	4	0	0	2	1	1	0	1	0	1	0	11	24
合 計	131	104	114	126	109	117	141	141	172	121	136	157	1,569	1,610

●オペ件数

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
両側眼瞼下垂症余剰皮膚切除術	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	2
合 計	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2

術式：両側下眼瞼脱脂

●主訴別件数

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
シ ミ	32	13	16	20	13	16	23	27	38	28	29	29	284	365
シ ワ	6	5	7	10	15	15	15	12	18	8	5	10	126	112
た る み	3	3	7	2	2	0	3	2	0	2	0	0	24	22
毛 穴	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
ホクロ・イボ	1	5	2	4	1	2	5	5	9	6	9	7	56	60
脱 毛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
そ の 他	89	78	82	90	78	84	94	95	107	77	93	111	1,078	1,048
合 計	131	104	114	126	109	117	141	141	172	121	136	157	1,569	1,610